

1 文献名
『立教百年誌』
2 学校名
立教小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
（1）雨や風、地震などの様子
（2）学校内や地域の被害の状況
<p>小学校で 1 名、幼稚園児 1 名の死者が出た。</p> <p>校地は、運動場が浸水約 3 m、激流により校庭に大凹地が生じ、樹木の大半は倒れ、校庭周辺の木柵は破壊された。</p> <p>校舎は、別館 1 棟が倒壊流失した。本館校舎内は床上浸水約 1 m、屋根瓦の大部分ははげ、ガラス窓は多数が破損した。出入口扉の大部分は破壊流失し、天井板の大部分は破損した。西校舎は全般的に北へ傾斜し、給食室東半分は半壊した。</p> <p>給食室の機械施設その他は使用不能となり、児童用机・いすなどの備品の多数も流失または破損した。給食食器類の大部分も流失した。</p> <p>幼稚園舎は屋根が飛散し、ガラス窓も多数破壊した。（P97～98）</p>
（3）復旧の様子
<p>学区内、市内、県内外から、義援金、救援物資、労力奉仕が寄せられた。</p> <p>決壊した海岸・河川堤防は、大がかりな応急工事により、10 月 17 日に旧堤防の仮締切、10 月末に湛水は排除された。その後 11 月 2 日の強風によって一部地区が破堤、立教地区は浸水したが、11 月 17 日ようやく排水工事は完了した。（P99～100）</p> <p>より大きな被害にあった城東小学校は、10 月 17 日から第 2 学期の終わる 12 月 24 日まで、臨時的に立教小学校校舎で臨時的に授業を実施した。（P100）</p> <p>台風当日から校舎 2 階は、区内で被災した人々の避難所となり、児童の学習は、干潮時を利用した変則的な日課で進められた。（P129）</p>
（4）体験談
<p>9 月 26 日夕刻の警報と同時に、若い男の先生も全員出勤して警備につき、重要書類を 2 階にあげて万一来に備えた。（P128～129）</p>
（5）教訓など
（6）その他